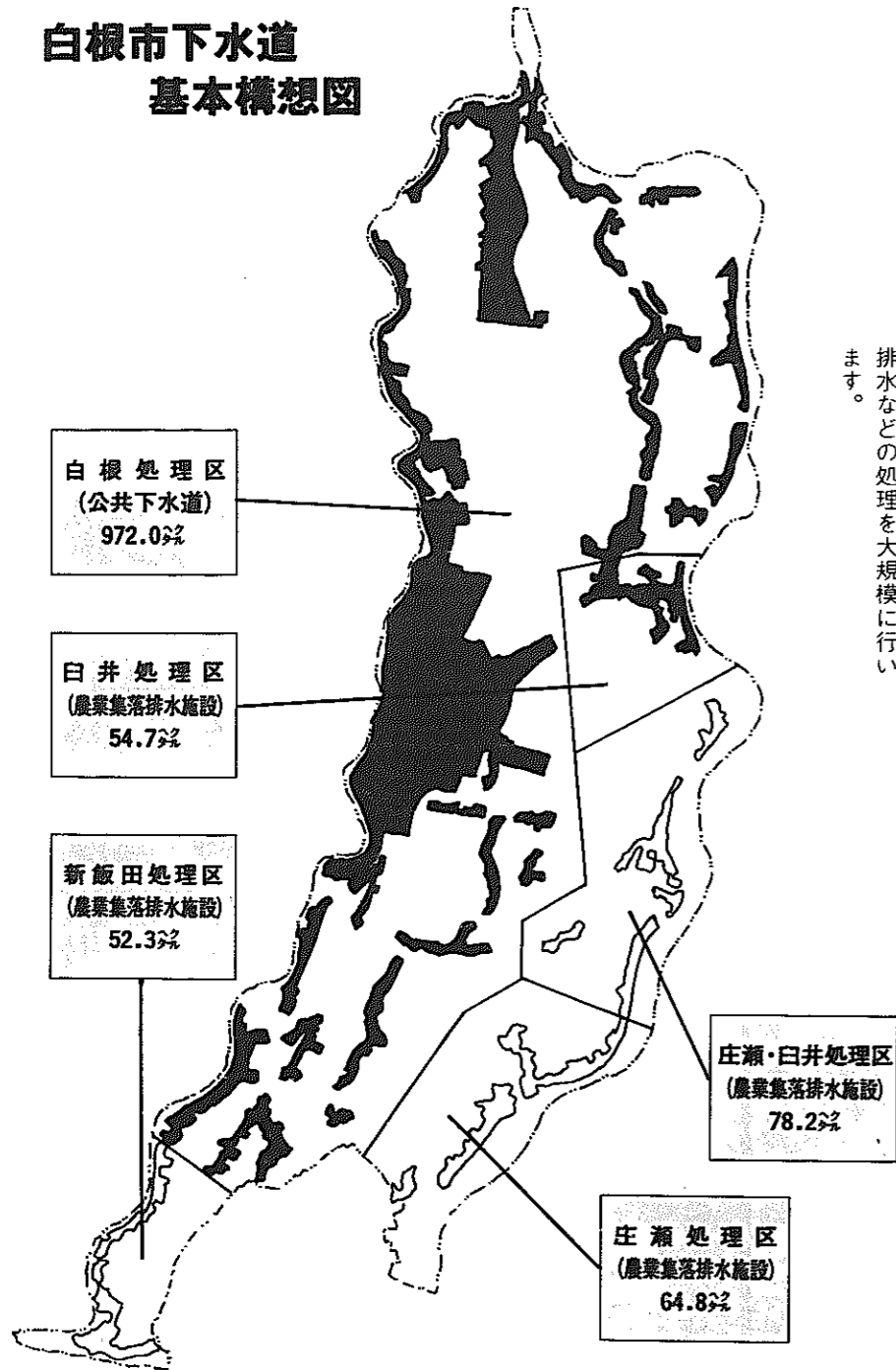


白根市下水道 基本構想図



美しい

公共下水道と農業集落排水施設で整備

構想では、五処理区の事業種別を、計画規模、区域の特性を考慮し、次のように設定しています。

①公共下水道……白根処理区
都市計画区域の市街地(人口集中地区)を中心に、広域的に整備。し尿や生活雑排水、工場排水などの処理を大規模に行います。

②農業集落排水施設……新飯田処理区、庄瀬処理区、庄瀬・白井処理区、白井処理区
農業振興地域内の農村集落の人口密度や地理的条件を配慮して区域を設定。し尿や生活雑排水などの処理を小規模で行います。

公共下水道と農業集落排水施設の違いは、処理規模の大小、所管する省庁の違いです。公共下水道は建設省、農業集落排水施設は農林水産省が所管します。また、公共下水道は都市計画決定が必要となります。このように事業種別により若干の違いがありますが、公共下水道、農業集落排水施設とも、生活雑排水などをきれいに処理する処理過程は同じものです。

環境は子孫への贈り物

下水道基本構想を紹介します

台所やふろなどの生活雑排水が、自然環境の破壊や生活環境の劣悪化をもたらし、大きな問題としてクローズアップされています。このため、生活雑排水などをきれいにして循環させる下水道整備の必要性が認識されています。

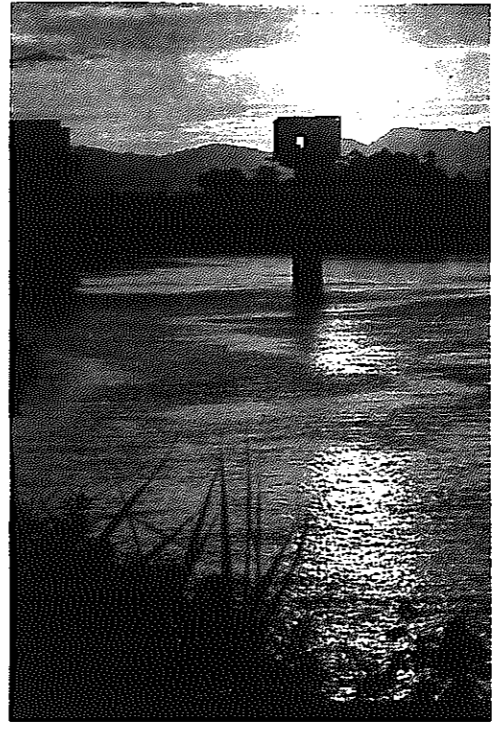
市では、平成3年度に市全域を計画区

域とした「下水道基本構想」を作成しました。構想では、処理区を5区域に分け、平成22年を完成目標とし、効率的な整備を目指しています。また、この構想を基本とし、地域の実状に合わせた下水道整備推進のため「下水道計画検討委員会」を設置。本格的な検討を進めています。

下水道整備で 快適な生活環境

水は私たちの生活にとって、欠かせないものです。飲料水として、また台所やふろ、洗濯などの生活用水として、さらに工場などの生産活動の用水として、私たちが文化的で快適な生活をするために使われています。ところが、使用した後の水が川や海などの水質汚濁の原因として、環境面から問題視されています。

従来、一般家庭から出される生活雑排水は、水質汚濁の原因とはならないとして、多くの地域で認められてきました。しかし現在では、水使用量の増加や食生活の多様化などにより、水質汚濁の大きな原因となることが報告されています。生



活雑排水が未処理のまま流され、魚を住めなくしたり、悪臭を発生させたりし、環境を破壊させているのです。

下水道は、こうした生活雑排水や商店や工場から出る営業用の排水などの汚れた水をきれいにし、川や海に戻す施設です。水は循環します。水は川や湖からくみ上げられ、私たちの生活や工場に使われます。使用後はまた川や海に流れ込み、蒸発し、雲をつくり雨を降らせ、雨水は川や湖に流れ込み、そこからまたくみ上げられるのです。

下水道の整備は、この水の循環を適正なものとし、さらに次のような効果が期待できるのです。

①快適な生活環境をつくります
家庭からの生活雑排水や工場排水などが、川や池に流れ込まなくなり、水がきれいになります。

また、住宅地では汚い側溝やドブがなくなり、まちが清潔になります。さらにハエやカなどの発生と悪臭を防ぎます。

②水洗トイレが使えます
くみ取り式トイレは悪臭の原因となり、衛生的に問題です。水洗式にすることで、し尿はほかの汚れた水と一緒に運ばれ、下水処理できれいにされます。

20年後を想定した 下水道基本構想

市では、水質汚濁による生活環境の劣悪化に対処し、都市の健全な発展と公共用水域の水質保全、公衆衛生の向上のため、本市全域を対象にした下水道整備基本構想を平成3年度に作成しました。構想では、20年後の将来像を想定して設備規模を定め、完成目標年次は平成22年としています。

下水道計画区域は、自然・社会的条件や経済性を考慮し、五処理区とし、総面積一千二百二十二haを想定しました。経済性の面からは、全市を一処理区としての整備が最も効果的です。しかし、単一事業で、市全域を下水道整備するには、かなりの年月を要することから、左図の五処理区に分け、早期整備を図ることとしています。

**事業促進のため
検討委員会を設置**

市では、下水道構想を基本に、本市の実状に合わせた下水道整備をするため、昨年十月一日に「下水道計画検討委員会」を設置しました。検討委員会は市議会議員、各地区の自治会長等の代表、土地改良区など関係機関の代表二十二人で構成。既に先進地視察などを実施し、基本計画作成に向けた提言のまとめや住民負担、実施区域の着手順位の検討を進めています。

市では今後、検討委員会の提言を受け、住民の皆さんの同意を得て実施計画を作成。県や関係省庁との協議、事業申請、認可を経て、事業着手する考えです。

